



YMCA Annual Report

2024年度 埼玉YMCA 年次報告書

埼玉YMCA

大きな決断のもと 選択と集中による 組織の前進をはかる一年となる

半世紀前、埼玉の地にまかれたYMCAという一粒の種は、設立時の熱い思いとキリスト教基盤による使命により、確かな実が結ばれることを願って今日まで育まれてきました。しかし前年度末、1975年以来の長い歴史をもつ浦和センターが閉館、容易ならざる決断ではありましたが選択と集中による組織の前進を果たすべく、大きくその舵を切ることとなりました。

そこから新たに始まった2024年度は、川越、所沢、子育て子育て各センターとこばと児童館を四拠点として、人的配置や業務執行環境の整備につとめ、何より会員の皆さまからたくさんのご協力をいただくものとなり、将来への希望につながる歩みを踏み出すことができました。厳しい課題があることを覚えつつも、今後ますます地域で必要とされる存在となれますよう、これからも埼玉YMCAはその働きに努めてまいります。

埼玉YMCAの使命

私たち埼玉YMCAは、イエス・キリストによって示される愛と奉仕の教えに基づき、すべての人々の全人的な成長を願い、地域に根ざし、以下の働きを行います。

▽ボランティア

私たちは、人の痛みを感じとり、隣人となって地域社会で働くことを喜びとします。

▽生涯の学びの場

私たちは、生涯をととして共に学ぶことの喜びにふれ、成長することのできる実践の場を開拓します。

▽環境

私たちは、あらゆる自然とかけがえのないいのちを尊び、守り育てる生き方をします。

▽平和と国際協力

私たちは、世界中の人々が互いを認め合い尊重し、共に平和な世界を築く働きを進めます。

▽支え合う心

私たちは、人々の心と心の交流をとおし、未来を信じてゆける豊かな地域社会を築きます。



代表理事
吉野勝三郎



代表理事・総主事
太田 聡

2024年度は、埼玉YMCAにとって「変化と挑戦」の一年でした。10月には代表理事の休職という大きな出来事がありましたが、その中でもYMCAの歩みを止めないために役員会では丁寧に議論を重ね、2025年2月からは代表理事2名体制という新しい運営が始まりました。定款変更を含めた大きな決断をしてくださった役員の方々に、心から感謝申し上げます。

活動面では、コロナ禍以降休止していたオレゴンキャンプを再開できたことは大きな喜びでした。紛争や国籍に関する問題が取り上げられる今だからこそ、お互いの文化や違いを尊重する体験を子どもたちに届けられたことは、多くの方々のご協力の賜物です。

また、埼玉YMCAはコロナ禍の中で 創立50年を迎えました。次の50年をより力強いものとするために会員増強に取り組み、30名の新たなサポーターをお迎えすることができました。地域と共に歩む確かな一歩であると感じています。

そして何よりも、日々 前向きに子どもたちや会員と向き合い、丁寧に働きを支えている職員やボランティア一人ひとりの存在が、YMCAの力そのものであることを改めて深く実感しました。

これからも新しい体制のもと、皆さまと心を合わせ、「子どもと家庭を支え、地域にポジティブネットを広げる」使命を大切に、歩を進めてまいります。どうぞ共に希望を分かち合いながら、新しい年度を歩んでまいりましょう。

埼玉
YMCA
基本方針

私たち埼玉YMCAは、世界に広がるYMCAの一員として、いつの時代においても公正で平和な社会を目指し、「埼玉YMCAの使命」に則り、定款に掲げる「公益目的事業」を、地域の課題と向き合いながらボランティアや他団体との協働を通して実施していきます。その実現のために、オールジャパンYMCAとして取り組む新たなブランドコンセプトの浸透を継続し、「互いを認め合い、高め合う、ポジティブネットのある豊かな社会」の創造を推進していきます。

2024年度
年間聖句

「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい」
(ヘブライ人への手紙 12章14節)

2024年度
基本方針

「ポジティブネットのある豊かな社会」の創造を推進するために、各事業の拡充に取り組み、あわせて世界のYMCAと日本のYMCAが新たに示す vision への取り組みを埼玉YMCAの働きとリンクさせて、埼玉YMCAの使命に基づいた働きをととして実践していく。

そのために、職員と会員一人ひとりが 埼玉YMCAの使命の実践者であることを意識できる機会をつくり、プログラム参加の拡充やボランティアが活躍する場面の再構成とその育成に努め、他団体や地域の方々とのつながりを広げながらその推進を継続する。

活動・行事

2024

4 April

- 早天祈禱会(オンライン原則通年毎月1日)
- 新年度礼拝(4/5)
- 幼児園Kids Academy入園式(4/9)
- 東日本YMCA役員研修会(4/27)
- クリーンアッププロジェクト
(クローバー卒業生と3ワイズ4/27)

May 5

- 赤城プレキャンプ(5/3-5@ぐんまYMCA)
- 全国YMCAリーダー研修会(5/4-6@盛岡)
- 幼児園Kids Academy避難訓練(5/10)
- 幼児園Kids Academy・Preschool
親子遠足(5/14@稲荷山公園)
- 所沢市乳幼児研修受講(5/14)
- 小規模保育室こぐま 所沢市交通安全・
不審者対応研修受講(5/30)

June 6

- 全国YMCAウォーターセーフティー
キャンペーン(6/1-9/30)・「親子で水の
安全を知ろう」(6/16)
- 救命救急講習会(指導:所沢消防署 6/2)
- 小関京子先生を偲ぶ会(6/9@子育て
子育てセンター)
- 埼玉YMCA定時評議員会(6/20)
- 木村利人氏講演会(主催:川越ワイズメンズ
クラブ 6/22 @子育て子育てセンター)

9 September

- 全国YMCAリーダーズフォーラム
(9/6-8@山中湖センター)
- 埼玉YMCA全体職員研修(9/8)
- 共生社会フォーラム参加(9/12-13@山梨)
- 所沢市スイミングフェスティバル協力
(9/15@早稲田大学)
- Sport in Life推進プロジェクト/体育が苦手
な子に対する運動意欲向上の実証実験
(横浜 YMCA協働 9月-3月)
- 聖書勉強会(澁谷弘祐牧師9/25・27
以降毎月2回開催@所沢センター)

July 7

- 所沢市牧師会(7/1@所沢キリスト教会)
- 上山口中学校職場体験受入(7/2-4)
- 川越特別支援教育研修会(7/2@川越
センター)
- こばと児童館指定管理受託にかかる
プレゼンテーション(7/12)
- ウォーターセーフティー水上安全指導
(学期最終日)
- 大人の体力テスト(7-8月)

8 August

- Y'S × SDG'S Youth Action ちいさな
アトリエプロジェクト(8/3,7,8,21,22
@川越市シェアスペース mibunka)
- ダイナミックサマーキャンプ in
オレゴン(7/27-8/11@北米)
- 少年の主張埼玉県大会「ポジティブネット
YMCA特別賞」授与(8/18@埼玉共済会館)
- インターネット依存症治療キャンプ
協力派遣(8/18-23@横浜・三浦YMCA)
- 幼児園Kids Academy 夏期保育(8/21-23)

October 10

- 北野中学校職場体験受入(10/9-10)
- 幼児園Kids Academy Sports Day(10/12)
- 職員研修(10/15)
- チャリティーラン街頭募金(10/19・22
@川越)
- 小手指地区子育て子育て支援関係者
情報交換会(@こばと児童館10/29)

11 November

- 第25回埼玉YMCAインターナショナル・
チャリティーラン(11/4@所沢航空
記念公園)
- 埼玉YMCA臨時理事会(11/7)
- 放デイ協議会研修会「デジタル依存」
講師派遣(11/13オンライン)
- 小手指中学校職場体験受入(11/26-28)

December 12

- 全国YMCA杯体操競技大会(12/1@大阪YMCA)
- 埼玉YMCA理事・監事・評議員合同会議(12/12)
- 幼児園Kids Academy 英語降誕劇(12/14)
- 埼玉YMCAクリスマス礼拝(12/14)
- 幼児園Kids Academy 年長お泊り保育
(12/18-19@高尾の森わくわくビレッジ)
- 水泳記録会メンバーズチャレンジ
(12/22@所沢センタープール)

2025

1 January

- 埼玉YMCA理事会(1/16,1/30)
- 幼児園Kids Academy 所沢消防署
見学(1/17)
- 向陽中学校職場体験受入(11/26-27)
- 埼玉YMCA評議員会(1/23)

February 2

- ピンクシャツデー(2/28)月間
- YMCA水泳交歓会(2/11@東京YMCA
東陽町コミュニティセンター)
- セミナー「つながりから考える依存症
予防」(2/15:小学生、23:中高生@子育て
子育てセンター)
- 子育て子育て会長会議(2/21)
- 埼玉YMCA理事会(1/27)

March 3

- 幼児園Kids Academyお別れ遠足
(多摩六都科学館3/7)
- アースデイ川越 in 昭和の街2024(3/9)
- 所沢市国際交流フォーラム
(所沢市役所3/9)
- 幼児園Kids Academy卒園式(3/14)
- 埼玉YMCA臨時評議員会(3/27)
- 川越ワイズ・埼玉YMCA川越センター
合同バスツアー(3/29)

一年のあゆみ

地域と共にポジティブネットのある豊かな社会を創るために

●ともに生きる喜び、互いを尊重する大切さを学ぶ●

・埼玉YMCAインターナショナル・チャリティーラン (11/3)

記念すべき第25回を迎えて、21チーム、個人34名とボランティアなど総勢350名が集まって開催された。今年も多く企業の、団体、個人から協賛や物品の提供があり、寄せられた支援金112万円は子どもたちのための特別支援プログラムに用いられる。



・ピンクシャツデーの取組み (2月)

いじめを自分のこととしてとらえていこうと2017年から始まり、差別や偏見、分断のない社会を目指している。埼玉YMCAに集うそれぞれが、様々なプログラムの中で共に考え、伝え合いながら、今年もピンクシャツデーに取り組んだ。



●社会の課題と向き合い困難に在る人々に寄り添う●

・**募金活動** 年間を通しての国際協力募金、全国YMCAとも歩みを共にするポジティブネット募金を展開する。武力衝突や自然災害被災下で困難を覚える人々に寄り添う活動は、長期的展望と継続が求められている。また、チャリティーランの周知を図る街頭募金も実施した。

・**食のセーフティーネット作り** NPO法人フードバンク西埼玉に協力、所沢センターに食品受付のコンテナ設置場所を提供した。

●家庭や地域ぐるみで子ども、ユースの安全や成長を見守る●

・**ウォーターセーフティーキャンペーン (6~9月)** 水の事故から命を守るために毎年展開する活動で、今年は特別プログラム「親子で水の安全を知ろう」を開催、水の危険の実際を学ぶ機会となった。ウォーターセーフティーハンドブックを配布、会員だけでなく近隣小学校や諸団体に着衣泳を指導、地域に広がる啓発活動を推進した。



・**救命救急講習会** 所沢市消防署職員による救命救急講習を各事業のスタッフが受講、安全なプログラム実施のための技術を具体的に身につけた。

・**市内中学生職業体験受入れ** 所沢市立中学4校から16名を受入れ、幼稚園 Kids Academy や水泳クラス、こばと児童館で、様々な仕事を通しての社会経験と責任を知る機会を提供した。

・**ボランティアの養成** 野外活動や語学プログラムにリーダーとして参画するユースを育み、こばと児童館では学生、社会人のボランティアを受入れ、奉仕の精神を培いながら社会が子どもを育てる実践に注力した。



・**YMCA Future Engineer** Amazon Japanとの協働で子どもたちにSTEM教育を提供、プログラミングを学び、身近に感じて、未来にむけて自分の可能性を広げていけるよう実施されている。

・**デジタル依存を考える** 生活に欠かせないデジタル機器は、一方で学校・社会生活、健康にも問題を引き起こす依存的課題も顕在化している。こうしたデジタルと上手に付き合う方法を伝えるプロジェクトを専門家と共に積極的に取り組んでいる。

・**教育相談** 特別支援に係る保護者への相談、こばと児童館での育児相談や専門家へのつなぎ等、子育て世代を支援した。

・**「少年の主張埼玉県大会」協賛 (8/18於：さいたま共済会館大ホール)** 埼玉県、埼玉県教育委員会等が主催する大会に協賛、「ポジティブネットYMCA特別賞」を鎌形ひかりさん(草加市立谷塚中学2年)に授与した。

●地域にあってさまざまなつながりを深める●

・**行政・他団体との協働** 青少年育成埼玉県民会議、埼玉県青少年団体連絡協議会、埼玉NGOネットワーク、さいたま市国際NGOネットワーク等に参加、地域協働や連帯に努めている。

・**国際フェア(10/27)／所沢市国際交流フォーラム(3/9)／アースデイ川越 in 昭和の町2024(3/9)** ほか埼玉県下で国際協力・多文化共生の活動を行う団体等が多彩なイベントを協力して開催、かけがえない地球環境を守り平和で安全な世界を目指す取組み、地域の絆を結ぶ市民交流の機会となっている。YMCAも参加、また運営を担うなどして、活動展示や情報発信の場を創出した。

・**早天祈祷会(毎月1日)** 早朝7時からオンラインで継続し、268回を数えた。毎回、時にかなって与えられる奨励者によって豊かな祈りの時が守られている。

・**所沢市内教会牧師会** 所沢市民クリスマス会を共催(近年は未開催)したつながり。地域にあって主に仕える働きの担い手としての集いに連なっている。

み
つ
つ
な
が
る。
よ
く
な
っ
て
い
く。

小関京子先生をしのぶ会



2024年3月26日に急逝された小関京子先生を偲ぶ会が、6月9日(日)に子育て子育てセンターで開かれ、県内外から先生を慕う80名を超える方々が参集した。

小関先生は2002年より埼玉YMCAの特別支援教育に関われ、教員生活を終えてからは特別支援教育、幼児教育でのご指導、公益財団理事、教育アドバイザー、協力会員、そして所沢ワイズメンズクラブの一員として、多岐にわたりご奉仕くださった。大きな喪失感と、それを覆って余りある感謝を覚え、生前の先生のお人柄そのものの温かな雰囲気の中に執り行われた偲ぶ会となった。

1. 幼児教育事業

0歳児から小学校就学前までの基礎教育プログラム

幼児教育事業における2024年度年間主題を「ともにつむぎだす～希望の中で～」とし、多くの園児、家族、地域とのつながりの中で、子どもたちの成長を愛をもって見守り、共に育ち合っていくことを大切にするYMCAの保育を実践することができた。

こぐま、プリスクール、Kids Academyでは、クッキングや消防署見学、合同での水遊び等が今年も行われ、みかん狩や芋掘りなど、野外での楽しい季節の活動も実施された。また年間を通して、カラーデー、クレージーヘアデー、ファッションショーデーを設け、子どもたちが、一緒に特別な体験をすることで連帯感を強めたり、それぞれが表現する「自分らしさ」を認め合ったりという体験を重ねている。クラスを超えた縦のつながりも大切にしたい一年であり、互いに助け合う心が自然と育まれる環境の中で、子どもたちは心身ともに伸び伸びと楽しく過ごすことができたようだ。

こぐま、プリスクール、Kids Academy、そしてその先のYMCAキッズクラブ(学童)までも含め、多彩なプログラムづくりとその連携を通して、幼児期からその上の年代まで包括的に子どもたちを受け止め、それぞれの成長過程をYMCAの活動の中で見守りつなげていけるよう、さらなる取組みを続けたい。

(青柳真理子・太田なぎさ)



幼稚園Kids Academy (年少・年中・年長クラス)
プリスクール (総合・英語保育)
小規模保育室こぐま
ベアクラブ

2. 特別支援教育事業

生きにくさを抱える子どもへの支援プログラム

2024年度の埼玉YMCA 特別支援教育活動は、浦和センターの閉所という大きな変化から始まり、この転機により、川越センターでは新たに23名のメンバーを迎え入れ、総勢68名での放課後等デイサービスがスタートした。浦和センターで勤務していた非常勤講師の多くが、引き続き川越センターでの勤務を希望されたため、活動内容や指導体制を大きく変えることなく、継続した支援が可能となった。子どもたちにとって、環境の変化は大きなストレスだが、馴染みのある講師や安心できる支援体制がそのまま維持されたことで、当初は「遠い」「大変」と話していた子どもたちも、次第に落ち着いて通えるようになっていった。つながりや安心感は何よりも大切であり、特に変化が苦手な子どもたちにとって、これまで築いてきた信頼関係が継続されたことは大きな意味があった。また、SST(ソーシャルスキルトレーニング)に力を入れている放課後等デイサービスは他に少なく、「距離があっても通いたい」というご家庭の声が多く寄せられたことからYMCAの支援の意義をあらためて確認することができた。

川越センターの大きな特色は、地域とのつながりの中で子どもたちが実践的な学びを得られるプログラムが充実していることである。季節ごとのプログラムでは、地域の環境を考える活動に参加したり、地域の子どもの関係団体と連携してお楽しみ会を開催するなど、子どもたちがSSTで学んだスキルを実際の社会の中で活かす貴重な機会を多く設けることができた。また、川越センターではこれまでも学校や他団体との連携を積極的に行っており、その必要性は今後さらに高まってくると感じている。子どもたちの成長を支えるためには、家庭・学校・地域・福祉の連携は不可欠である。

2024年度は、大きな変化の年であると同時に、「支援の継続性」や「地域とのつながりの重要性」を再確認した一年でもあった。浦和から川越への移行という変化の中でも、勤務を継続された講師の方々、また変化を乗り越えて通い続けてくれた子どもたちとご家族の皆さまに心より感謝申し上げ、子どもたちの可能性を信じ、一人ひとりの成長に寄り添うこの活動を、今後も丁寧に積み重ねていきたい。「地域に根ざした特別支援教育」を目指し、子どもたちが自分らしく成長し、安心して社会と関わる力を育てていけるよう、これからも地域の方々との連携を一層深めながら歩んでいく。

(河合今日子)



放課後等デイサービス
ライフスキルクラス
グループ活動

3. 野外教育事業

グループ活動・自然体験・環境教育を軸とする野外活動

野外教育事業では、グループ活動・自然体験・環境教育を軸に「一人ひとりの全人的な成長」を願って活動を実施している。

季節の移ろいに合わせて、野外炊事や潮干狩り、川遊び、乗馬やアスレチック、果物狩りなどのデイキャンプを毎月開催した。夏休みには、はじめてのキャンプ、昆虫発見大作戦キャンプ、わくわくチャレンジキャンプ、化石発掘と銘打った活動を、冬休みには、丸沼パウダースキーキャンプ、スキーざんまいキャンプ、はじめてのスキーキャンプ、雪遊びキャンプを実施した。活動後には毎回、ディポジション(ふりかえり)の時間を設けており、参加者からは「〇〇ちゃんと仲良くなれて嬉しかった」「去年よりたくさん貝が採れた!」「上級者になった(スキーが上達したという意味)」などの声が聞かれた。こうした活動のふりかえりを通して、グループの仲間やリーダーとの関係構築、自然体験、技能の向上など、多様な学びが得られている様子がうかがえる。また継続して参加する子どもたちも多く、経験の積み重ねが、参加者の自信や自己肯定感の向上、責任感への芽生えにつながっている。

2024年度は、32名をユースボランティアリーダーとして登録し、育成および研修を実施した。就職活動の準備を目的とした短期的なリーダーも一定数見受けられ、長期的な人材の定着には課題が残るが、少子高齢化の今こそ、「ユースエンパワーメント」を重要視し、リーダー育成に励み続けたい。

都市化やデジタル化が進む現代において、子どもたちが自然や異年齢の人と触れ合う機会は年々減少している。そうした時代において、野外教育活動は貴重な時間になっている。2024年度も、多くの子どもたちやリーダーが自然の中で笑顔を見せ、豊かな学びと喜びに満ちた時間を過ごすことができた。今後もYMCAの野外教育活動が、一人ひとりの成長に繋がることを願っている。

(木下 遥七)



定例活動
小江戸Yキッズ
所沢アドベンチャーキッズ
季節キャンプ
夏季デイキャンプ
冬キャンプ

4. 国際理解教育事業

国内外でおこなう多文化共生・平和への取り組み

埼玉YMCAが展開する多様な英語教育や国際教育活動は、世界で対立や分断が広がるこの時代においてこそ、豊かな出会いと経験を通して平和で公正な社会を創り出す人を育てることを願って展開されている。

年間を通じた幼児・小学生・中高生クラスでは、フォニックスをベースとした読み書きの力をまず初めに着実に身に着けつつ、リスニング、スピーキングを含めた対話力の習得を目指している。一方、夏休み等の長期休みに行われる5日間連続のサマースクールや国内の英語キャンプでは、グローバルな視野、クリエイティブな発想を大切に、多くの参加者が楽しく、自然に英語に触れ、学ぶことのできるプログラムを実施した。また、中高生ジュニアリーダー枠を設け、ユース世代の居場所づくり、活躍と育成の場を増やすことにも引き続き注力した。

2024夏には、コロナ禍により休止し続けた海外交流プログラムダイナミックサマーを再開し、2週間にわたるサマーキャンプinオレゴンに小3～中3の14名が参加した。1週間のYMCAキャンプと1週間のホームステイの中には、たくさんの異なる考え方や価値観が溢れている。その多様性に満ちた世界で、違いを受け止め合い、理解し合い、距離を縮めていく体験と、そのことを通して築かれる絆こそが、YMCAが願う平和な世界にこの先つながることを信じている。

(青柳真理子)



英会話クラス
Summer/Winter/Spring School
特別プログラム
企業・教育機関講師派遣

5. 健康教育活動事業

よりよい生き方をめざす「ウエルネス」プログラム

2024年度の健康教育事業においては、少人数のスタッフで一致団結してクラス運営を行った。事業推進のめあてとしては、既存のプログラムを強化し、特別プログラムの多様化を図ることで参加者数の増加を目指した。諸経費の高騰などから会費の値上げが行われ、登録人数は伸び悩みながらも、スタッフ一人ひとりの人柄、会員の方々との絆を武器に、継続して参加いただけるプログラムも増えていった。

この年度ならではの取組みとして、「Let's GO YMCA」と銘打ったプログラムで、夏はお祭り、冬にはクリスマス会を実施し、普段通っているクラス以外にもYMCAには楽しい企画がいっぱい！とのアピールをコンセプトに、会員の参加を呼び掛けた。また、会員とその家族を対象にした水泳の記録会「メンバーズチャレンジ」では、より良い記録を目指す人、タイムアタックに初めて挑戦する人が気軽に参加できるよう、種目も25m バタ足から100m 個人メドレーまで幅広く設定するなど工夫し、盛会となった。一方、ひとりでも多くYMCAに来館される方を増やそうと、公用車、会館建物などへの掲示広告に注力、特別プログラムへのお誘いを個別に行ったりしたが、広範囲でのチラシの配布はじめ、さらに有効な広報活動についての検討、準備が十分でないことは課題として残った。曜日や時間帯における利用者の著しい偏りが見受けられることなどの現況を精査、改善点をふまえて日々のクラス指導、プログラム指導の充実を図ることも求められている。

近年力をいれているアクロバティック教室では、子どもたちの成長著しく、全国YMCAの体操競技会では好成績を収めた。また成人会員対象に「大人の体力テスト」を実施して日常生活での体力面でのサポートを行い、大変好評であった。様々な不足に悩みつつも、スタッフの熱意と献身のもと、地域にあって人々の健康増進に寄与するプログラムを提供するという、YMCAがなすべき働きに努めた一年であった。

(大井恵美子)



子ども(水泳・体操・空手)
成人(健康増進プログラム)
地域支援(プール無料開放)
ウォーターセーフティ
(着衣泳指導・啓発活動)



6. 放課後児童健全育成事業

子どもの安全な居場所～地域のニーズに応える学童保育

子育て子育てセンターが活動拠点となって2年目を迎えた。2023年度までは上新井小学校と北中小学校の2小学校の児童の受け入れであったが、2024年度は開智所沢小学校の児童も加わり、80名の児童でスタートをした。

YMCAが運営をする児童クラブらしさを念頭に、YMCAキッズクラブで大切にしている「子どもたちが自分で考え、主体的に行動すること」「4つの価値（思いやり・尊敬心・誠実さ・責任感）」をテーマに活動を行った。学期毎に組み替える10人程度のグループ（学校・学年・性別混合）では、リーダー、サブリーダーをグループ内で話し合って決めることとし、立候補や推薦で引き受けた子どもたちを他の子どもたちが協力して支え、責任感を発揮する姿もみられた。このようなグループワークを通じて、学年・学校の枠を超えて子どもたち同士の関係もより良い形に変わっていき、子どもたちと共に「安心・安全な環境づくり」を進めることができた。また、YMCAが野外活動で行っているレクリエーション活動を実践し、キャンプソングなどをたくさん歌うなどYMCAならではの経験を通して、YMCAキッズクラブの仲間という意識を高めることができた。

2024年度もAmazonとの協働で「YMCA Future Engineer」の特別プログラムを実施した。ゲーム制作に関わる方との交流の場もあり、児童だけではなく、保護者からの関心も高かった。

毎年全国のYMCAで実施している「ピンクシャツデー」にキッズクラブでも取り組み、いじめを自分事として捉えて相手の気持ちを考える時間をもった。動画を観たりリーダーの話を聞いたりして、グループ毎に自分の考えや感想を伝え合い、分かち合うことができた。

これからも放課後児童クラブをYMCAが運営する意味を考え、YMCAらしい児童クラブにするために、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、YMCAキッズクラブが子どもたちにとって安全で必要な場所となるよう、引き続き取り組んでいきたい。

(宮崎 純)



YMCAキッズクラブ

7. その他の事業

地域のネットワークを活かし、ともに生きる社会づくりをめざす

前述の教育5事業ならびに放課後児童健全育成事業に加えて、地域にあって一人ひとりが支え合う責任があることを学び、共生社会の構築を目指すものとして、チャリティープログラムや他団体と協働する事業を推進した。

2024年度の重点課題として、子育て子育て事業の推進(当該世代への居場所として認知・機能を向上させ、生きにくさのある子どもと家族に寄り添う)、実施体制の強化(多様性のある地域活動を展開するためのスタッフ育成、会員管理・キャッシュレス決済等のデジタル化継続による利用者の利便性向上)、組織のレジリエンス向上(既存の事業所、事業にとらわれずフレキシブルな展開を推進)、社会課題の解決(生きにくさをもつ子どもたちを支援する国際・チャリティーランやいじめのない社会をつくるために共に考えるピンクシャツデー、国際協力募金等を推進し、関係諸団体と協働しつつ地域の課題、特に青少年に関わる取組みを強化)、ブランディングの推進(世界のYMCAが示すVision2030と埼玉YMCAの使命をリンクさせ、YMCAの認知度、理解度の向上を図る)を掲げた。それに基づき、相互に重なり関連し合う埼玉YMCAの諸事業がその他の事業におけるプログラムとも深く連動して、地域にあって多彩な活動を推進することができた。ワイズメンズクラブとの様々な協働、アースデイ川越や所沢市国際交流フォーラムなど市民の国際交流と多文化共生を目指すイベントへの参画、インターンシップや中学生職場体験受入れなど教育機関との協働、子どもたちへのデジタル依存予防教育、国内外で困難を覚える方々への支援募金活動、フードバンク西埼玉への食品寄附窓口としての協力、Amazon Japanが支援するICT・プログラミングを学ぶプログラムの提供も継続して行われた。また全国YMCAで取り組むウォーターセーフティーキャンペーンでは会員のみならず、地域の児童館、学童、ボーイスカウトなど8団体290名に上る子どもたちも参加、広く地域に広げた水の安全にかかる啓発体験活動を推進することができた。

諸事情により、埼玉YMCAフェスティバルはその開催が見合わされたが、地域にあって人々が集い絆を結ぶ交流の場の必要性は大きく、こうした機会の提供には今後も積極的に取り組んでいきたい。



8. 指定管理事業 所沢市立こばと児童館

行政との協働による児童館運営

こばと児童館の2024年度事業は、計画通りもれなく実施することができた。コロナ自粛から復活し、来館者も過去2番目に多い年となった。乳幼児は一日平均20組の親子利用があり、保護者同士や職員との関係づくりを心掛けた。土日祝日は父親の利用率が高く、館内外でおもちゃ遊びやスポーツを楽しむことで親子の絆が築かれる様子も多く見受けられた。小学生の利用は高学年が多いが、縦のつながりもできて下級生の面倒をみながら一緒に仲良く遊んでいる。この年度、67名の児童が入所した生活クラブでは、安全な居場所づくりを軸に学齢を越えた交わりの中で子どもたちの心身の成長を育む活動を実施、保護者とも信頼関係を構築するよう努めた。また、中高生タイム、中高生ルームの取組みによって、中高生の利用も増加傾向を見せた。顔の見える関係性による安心感を大切に、今を輝かせたい中高生の自己実現の場所として児童館機能をいかに広げていくか、今後もスピード感を持って取り組みたい。

実習や職場体験学習として近隣大学、専門学校、市内中学校、一般・社会人を受入れ、ボランティア育成にも注力した。また、児童健全育成推進財団「こどもまんなかプログラム」の助成やNPO法人子ども地域ネットワーク所沢との連携による活動、埼玉YMCAと協働した水上安全教室(所沢市教育委員会後援)、参加親子の悩みや相談を受けてケースによってはこども家庭センター地区担当保健師へつなぐ子育て世代支援なども行っており、県議会議員や近隣小中学校校長、所沢市社会福祉協議会、所沢市青少年課、青少年を守る会などが集まったの情報交換会も実施しながら、行政、教育機関、関係諸団体、一般市民と協力、地域ぐるみで子どもたちの健全育成を推進した。指定管理を開始して10年という月日を経てこばと児童館の存在が家庭、地域に浸透し、お寄せいただいている信頼に感謝し、より地域に必要とされる児童館運営に努めていきたい。

(櫻井 徹)



乳幼児・小学生・中高生対象活動
地域子育て支援拠点事業
放課後児童健全育成事業(生活クラブ)
自主事業

2024.3.現在 順不同・敬称略

◆ 賛助会	株式会社武蔵野銀行 武州ガス株式会社	ライオン株式会社 株式会社伊藤園新座支店	株式会社丸広百貨店
◆ 協力会員	175名		
◆ プログラム参加者 (延べ数)	6,724名 内	在籍及びこれに準ずる 登録年間利用・登録参加 季節・特別プログラム/催し等 参加 上記の他	1,346名 3,097名 2,281名 37,857名
◆ 役員	代表理事 理事 監事 評議員会会長 評議員	吉野勝三郎 太田 聡 (小谷全人) 衣笠輝夫 青柳真理子 村上祐介 山本剛史郎 (水無瀬隆造) 利根川恵子 (吉野勝三郎) 阪田震一 池田美知子 三輪地塩 五十嵐成見	
◆ アドバイザー	佐々木仁子		
◆ 委員会	《チャリティーラン 実行委委員会》	矢野啓介(委員長) 池田美知子 並木 実 伊東成未(所沢鍼灸師会) 太田 聡 / 大井恵美子(事務局)	
《早天祈祷会》	衣笠輝夫 吉野勝三郎 上松寛茂 高橋良和 太田 聡		
◆ ボランティアリーダー	所沢センター 川越センター	小椋捺未 増田愛梨 川口竜輝 岩田湧和 中谷瞳子 上田拓未 網谷真佳 井田知瑛 石島オフィーリア 岩間美希 松澤美咲 高野捺芽 林 美有 佐藤友花 島田美里 横田いずみ 阿部真琴 藤木萌人 岩井瑛莉子 川島千里 和田明香 加藤理沙 山田 懐 池上天乃 木本真太郎 宝利亜美 飯島悠翔 前田涼太 田中悠太 青柳千洋 後藤瑞甫 倉野尾 恭平	
◆ 職員	総主事 本部事務局 所沢センター 川越センター こばと児童館 その他スタッフ	太田 聡 (小谷全人) 古市さおり 中村実千代 青柳真理子 太田なぎさ 大井恵美子 (川久保祐美) 宮崎 純 中村征人 小湊 陸 福田真美子 錦古里則子 深田康生 石川達也 新井隼斗 阿部夏代 小石澤アニザ 立岡智美 木葉雅子 山本直子 Richard Webb Janelle Katori George Baker Khulan Munkhdavaa (Jarret Belt) 河合今日子 木下遥七 長尾愛美 坂室由美子 櫻井 徹 太田昌孝 (西川 恵) 鈴木美香 小島彩海 千葉てるみ 87名	

※(氏名) 年度途中育児休暇等休職または退職

公益財団法人 埼玉YMCA

所沢センター	所沢市小手指町1-39-2	Tel 04-2939-5051	Tokorozawa@saitamaymca.org
川越センター	川越市菅原町7-16	Tel 049-226-2491	Kawagoe@saitamaymca.org
子育て子育てセンター	所沢市小手指町1-39-11	Tel 04-2997-8255	kosodate.kosodachi@saitamaymca.org
所沢市立こばと児童館	所沢市小手指町1-28-3	Tel 04-2924-3065	kobato@saitamaymca.org

事業	プログラム	事業所	クラス／形態	人数	
幼児教育	小規模保育室こぐま(0～2歳児)	所沢	2形態(標準時間/短時間)	165	登録年間利用
	プリスクール(2～3歳児)	所沢	5クラス(総合保育/英語保育)	12	在籍
	Kids Academy(3～5歳児)	所沢	3クラス(年少/年中/年長)	38	在籍
特別支援教育	放課後等デイサービス	川越	曜日登録	2,581	登録年間利用
	クローバー卒業生対象プログラム	合同	全12回	77	登録参加
	特別支援教育キャンプ	合同	全14回	70	登録参加
野外教育	所沢野外教育活動	所沢	全10回	161	登録参加
	季節キャンプ(デイ/夏季)	合同	全4回	72	参加
	季節キャンプ(デイ/冬季・春季)	合同	全4回	41	参加
国際理解教育	英会話クラス	所沢	33クラス	98	在籍
		川越	12クラス	31	在籍
	企業・教育機関(講師派遣)	所沢	5団体9クラス	150	在籍
	特別活動	所沢	7イベント	140	参加
		川越	2イベント	33	参加
健康教育	水泳クラス	所沢	40クラス	718	在籍
	フロアクラス	所沢	9クラス	65	在籍
	教育機関等(講師派遣)	所沢	6保育園(体操2 水泳4)	154	在籍
	季節特別プログラム 水泳・体操	所沢	6講習・イベント	1,219	参加
	特別プログラム 空手	所沢	審査会	43	登録参加
放課後児童健全育成	YMCAキッズクラブ	所沢	年間登録	80	在籍
その他	地域プログラム	全体	チャリティーラン、国際関連イベント他	667	参加
			教育機関等との連携	25	参加
			早天祈祷会 全12回	84	参加
指定管理	所沢市立こばと児童館		来館者	37,857	年間利用
計				1,346	在籍
				3,097	登録年間利用・登録参加
				2,281	参加
				34,625	年間利用



公益財団法人 埼玉YMCA

本部事務局 〒359-1141 埼玉県所沢市小手指町1-39-2 Tel 04-2939-5051

Email office@saitamaymca.org